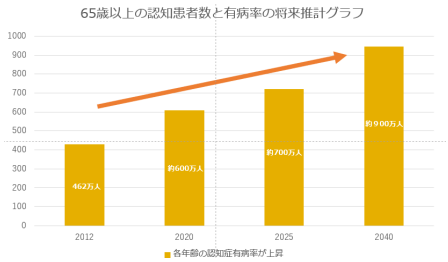
軽度認知障害を回復させるサービスM+

1941013板倉夏帆　1941039金澤碧

事業が生まれた経緯



出典：認知症高齢者の今後の推移と問題点 | 高齢者情報.com (koureisya.com)

2040年には認知症患者数が
約900万人以上に到達

メンバーのエピソード

私の祖父は認知症になってしまったため、入院生活を送ることになった。病院内での生活とコロナの影響で長期間ほぼ誰とも話すことが出来なかったそうだ。しかし、何日か祖父が家に帰れたとき親族みんなで会話や食事をすることができた。その結果、祖父は元気になったのだ。ここから分かることは、認知症である祖父が会話をして元気になったことと、認知症になってしまうと**多くの人に負担**をかけてしまうことが分かった。

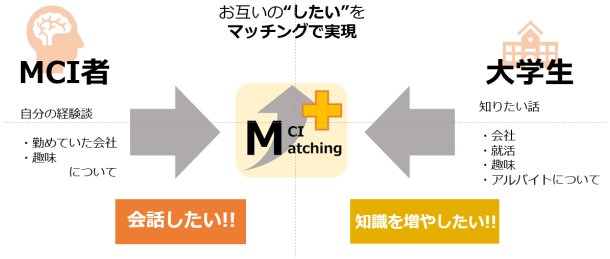
ターゲットと顧客が抱える課題

コロナ禍の外出控えの影響より、筑波大教授によると**3割が認知機能低下**がみられ、認知障害の人はさらに増加
⇒認知症問題はこれからも益々大きくなる

私たちがこの提案で伝えたいこと

病気(軽度認知障害)をマイナスに捉えるのではなく、人のためにも行動が出来るという捉え方にしてほしい。病気を治すことを諦めないでほしい。

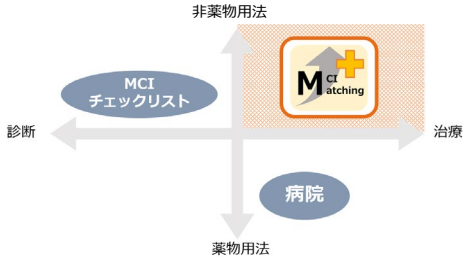
提案できる解決策・提供価値



この事業は**相互のメリット**がそれぞれ生まれるものとなっている。

医療従事者も大学生もこの事業に興味を持ってくれている。
（電話インタビュー、アンケート調査より）

対象となるマーケットの市場規模



M+は現在行われているMCIへの対応策とは異なる新しいポジション（非薬物用法で治療ができる＝治すことが可能）が取れる。
また、現在のMCI関連サービス事業は、国内も海外も「学習・運動・食品サプリメント」で事業展開されており、M+のような**コミュニケーションサービス事業は新しい分野**での対応となると考えられる。

ビジネスモデル

MCI者のみ

月額：500円
(運営費代のみ)

薬に払うお金を
M+に使うと考えれば安い
10日分1,980円を一か月と考えると12分の一になる
(https://www.atpress.ne.jp/news/219864)

400万人のうち4分の1の人が利用すると仮定した場合

100万人×500円×12ヶ月＝６0億円の収益

また、ホームページ作成にかかる費用やその後の運営費は月日がたつごとに利用者が増えていくと仮定して、運営し始めて4年後には利益が出始める予定だ。